

式辞

春の気配が日に日に濃く、桜のつぼみの様子を見上げるのが楽しい季節になりました。

本日ここに、同窓会、PTA をはじめとする学校関係者のご臨席を仰ぎ、本校への入学を心から喜んでいらっしゃる保護者の皆様の御同席を得て、入学式を挙行できますことを、新入生とともに職員一同、篤く御礼申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました全日制 282 名、定時制 12 名の新入生の皆さん、御入学、誠にありがとうございます。保護者の皆様、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

本校は、明治 17 年に設置された長野県中学校に由来し、明治 32 年に長野県立長野中学校として独立した 5 年間の課程を備えてから、126 年の伝統を培ってまいりました。この学び舎を巣立った諸先輩方は日本のみならず世界の各界で活躍されています。また、定時制は 70 年を超える歴史をもち、多くの卒業生と生徒を擁していますが、一人一人の生徒の希望により沿う、丁寧できめ細やかな指導で広く定評のあるところです。

さて、この喜ばしい日に、本校の門を叩くために集まった皆さんにお話ししたいことがあります。

皆さんは、「すべての川は海へと注いでいるが、いまだに海は一杯になっていない」という言葉を知っていますか。

1928 年のペニシリンの発見は細菌感染症との戦いに革命をもたらし、多くの命を救いました。1930 年代ではコレラや肺結核など細菌感染症による死亡率は 60%を超えており、全死亡者の 20%を占めていましたが、新たな抗生物質の発見や大量生産の方法が確立されたことによって急速に全世界に普及し、その死亡率は 1950 年には 4 分の 1 となりました。コロナパンデミックで世界が停止したときは、研究者たちが 30 年かけて育ててきたウィルス感染症に対抗するための mRNA ワクチンが多くの人々の命を救ったことは記憶に新しいところです。医療の進歩は目覚ましく、外科手術も、1990 年代にはじまった腹腔鏡下手術の普及から、現在ではロボット支援手術や、カテーテル治療と外科手術を組み合わせた、患者の負担の少ない、低侵襲治療が広がりつつあります。

しかし、人類は医療の画期的な進歩によって、確実に病いとの戦いで前進していますが、常に新たな課題を見出しています。今後また、新たな病が、人類の発展に脅威を与えることがあるかもしれません。

今年は第2次世界大戦が終結してから80年目です。日本にも原爆の投下や沖縄戦など悲しむべき記憶がたくさんありますが、ヨーロッパでは特にドイツが想像を絶する災厄を人類にもたらしました。ホロコーストによる犠牲者は600万人ともいわれ、これはヨーロッパ全体のユダヤ人の3分の2に相当しました。1945年の5月にドイツが無条件降伏をするまで、破壊がすべてを蹂躪しました。戦後、戦勝国と敗戦国が、長い年月を和解せずに過ごす可能性は、十分にありましたが、この悲劇を機会としてヨーロッパは数百年にも渡る、旧来の争いを克服しました。結果として、勝者と敗者の区別が残ったのではなく、ヨーロッパ連合という平和的秩序が生み出されたのです。

しかし、このような世界の連帯と平和への努力は引き続き進められているにもかかわらず、今なお、目の覆いたくなるような戦争の惨状が伝えられ、罪のない民間人が犠牲となっています。

人が苦しむ病に打ち勝つための努力はたゆまなく続いている。世界平和の祈りは永遠に終わらない。すべての川は海へと注いでいるが、海はいまだに一杯になっていないのです。

海が一杯にならないことは空しいことなのでしょう。研究者は、常に新しい知識を吸収し続けますが、完全に全てを知り尽くすことはありません。新しい発見や技術の進歩により、学ぶべきことは常に増え続けます。熟練した職人や専門家でも、技術や知識の向上に終わりはありません。いつまでも枯れぬ川の流れは人間の営みを、はるかで広大な海は、私たちの謙虚さと、謙虚である限り成長には限界のないことを象徴しているのです。

まっさらな新入生のみなさん、今日のあなたは、すでにこれまでのあなたとは違う。川が絶えず流れるように、その歩みを将来にわたって続けていく過程にあって、本日入学式に臨んでいるこの友人たちがみなさんを助け、勇気を与えてくれます。様々な個性にあふれ、情操豊かなこの仲間たちに刺激をうけながら過ごす日々の中で、永遠に満たされ続ける海を前に、これまでに、あなた自身も出会ったことのない、真新しいあなたが形成されていくのです。

みなさん一人一人が、長野高校で得た新しい出会いを心から大切にし、自分の精一杯を試しながら、ただひとすじに高校生活を充実させてほしいと願うばかりです。

最後に、お子様の入学を心から喜んでいらっしゃる保護者の皆様、日ごろから本校の教育活動にご理解とご支援をいただいています、同窓会、PTA、振興会の皆様に再び篤く御礼申し上げます。

令和7年4月4日

長野県長野高等学校長 廣田 昌彦